

マクタン(セブ)国際空港開発事業

評価報告：2000年3月
現地調査：1999年4月

1 事業の概要と国際協力銀行の協力

本事業は、マニラ国際空港に次ぐフィリピン第2の空港として重要な位置を占めるマクタン(セブ)国際空港(1960年中頃開港)において、施設の拡張・改修を行い、今後見込まれる旅客・貨物需要の増大に対応するとともに、安全性の向上を図るものである。

円借款対象は、事業費の外貨分全額および内貨分の一部(総事業費の75%)である。

借入人	フィリピン共和国政府
事業実施機関	運輸通信省(DOTC: Department of Transportation and Communications)
貸付承諾額/実行額	10,790百万円/10,578百万円
交換公文締結/借款契約調印	1991年3月/1991年7月
借款契約条件	金利2.7%、償還30年(うち据置10年)、一般アンタイト
貸付完了	1998年10月

2 評価結果

(1) 事業実施

事業範囲

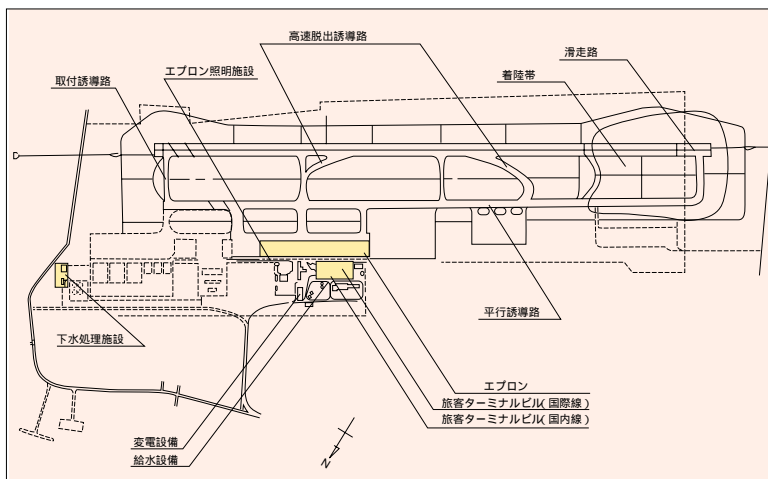
空港の主要設備(滑走路、国内線ターミナルビル建設)に関して変更はなかった。既存国際線ターミナルビル(本事業以前に、フィリピン観光公社(PTA: Philippine Tourism Authority)により建設)の改修に関しては追加工事が発生したが、これは空港としての本来の機能を発揮させるための工事であり、妥当な措置である。また、これに伴い、コンサルティング・サービスのM/Mが増加しているが、十分な施工管理を実施するための必要に応じた増加である。

なお、当時、従来よりあるターミナル用機器の劣化が進行しており、その更新が空港運営の安全面上不可欠との判断により、本事業の範囲内において調達・更新されている。



工期

本事業の主要部分である建設工事（滑走路・ターミナル）は、22ヶ月遅れの完成となっている。これは、実施機関である運輸通信省（DOTC）の入札手続きの遅れ（8ヶ月）と、PTAが別途実施した国際線ターミナルビルの建設の影響（14ヶ月）に分けられる。後者の先行建設は、一刻も早い国際線ターミナル開業への要求からフィリピン政府部内で認められたものであるが、これが遅延したために、借款対象部分である国際／国内線ターミナルビルを結ぶ建物の建設の着工が遅延した。更に、施工の質が低かったために、本事業対象の改修部分の工事量が増え、工期延長につながった。



事業費

追加調達を除き、事業費に大きな変更はない。ただし、アプレイザル時との比較において、実施時点で円高となったことから、円ベースでの事業費はややアンダーランとなっている。なお、コンサルティング・サービスの増加に対しては、予備費を利用して対応された。

主要計画 / 実績比較

事業範囲	計画	実績
滑走路	延長200m × 45m（延長後の全長3,300m）舗装3,100m × 45m	同左
旅客ターミナルビル建設・改修 駐車場 追加調達	合計33,300m ² 建設22,400m ²	合計34,000m ² 18,600m ² ボーディングブリッジ × 1、 X線検査機 × 7、金属探知器 × 3
コンサルティング・サービス		
合計	376M / M	769M / M
外国人	172M / M	301M / M
現地人	204M / M	468M / M
工期		
コンサルタント選定	1991. 7 ~ 1991.10	1991. 7 ~ 1991.10
入札	1991.11 ~ 1992. 7	1991.11 ~ 1993. 3
旅客ターミナルビル建設・改修 および機器調達 追加調達	1992. 7 ~ 1995. 5	1993. 4 ~ 1997. 3 1998. 1 ~ 1998.12
コンサルティング・サービス	1991.11 ~ 1995. 5	1991.11 ~ 1999.12
事業費		
総事業費（うち国際協力銀行分）	14,387.2百万円（10,790百万円）	12,845百万円（10,578百万円）
外貨（ " ）	6,098百万円（6,098百万円）	6,538百万円（6,538百万円）
内貨（ " ）	1,219百万ペソ（690百万ペソ）	1,558百万ペソ（998百万ペソ）
為替レート	1ペソ=6.8円（1990年）	1ペソ=4.048円 （貸付実行時平均レート）

(2) 実施機関の体制（実施および完成後の運営・維持管理）

実施体制

実施機関は、運輸通信省(DOTC : Department of Transportation and Communications)である。また、現地でセブ州の代表を含む事業調整委員会が設けられ、DOTCと地元関係者との調整および事業の進捗管理を行った。

なお、事業実施中に土地取得・住民移転にかかる問題は発生していない。

運営・維持管理体制

本空港の運営・維持管理を行っているのは、マクタン(セブ)国際空港(MCIAA : Mactan-Cebu International Airport Authority、1999年4月現在の職員数622名)である。うち、運営はOperation Dept.(29名)の、維持管理はEngineering Dept.(126名)が担当している。現状、MCIAAにおける運営・維持管理体制は十分なものと見受けられる。

運営・維持管理状況

運営状況をみると、旅客数、貨物量、離着陸回数、いずれも本事業完成後に増加しているが、アジア経済危機、およびフィリピン航空の営業停止の影響により、1998年には利用実績が低下している。維持管理状況については、特段問題は認められない。また、空港より発生する汚水については、フィリピン国内の基準値の範囲内で処理が行われている。

財務状況

MCIAAの営業収支は設立以来黒字で推移しており、その経営状況に問題はない。

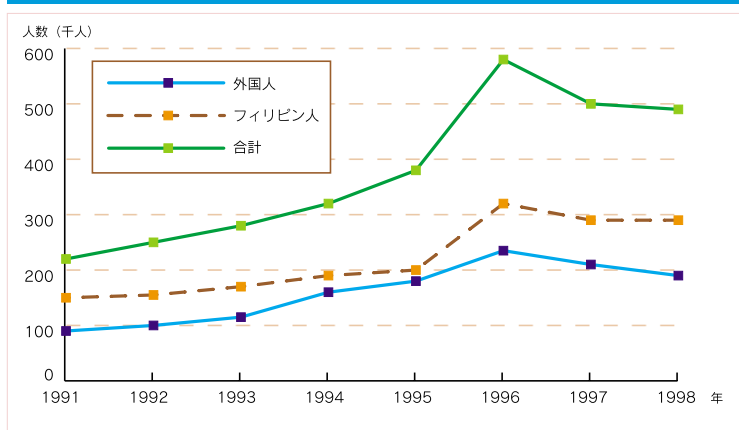
3 事業効果

(1) アプライザル時に計算された経済的内部収益率は、22.2%であったが、評価時に再計算したところ、29.3%となった。

(2) 本事業の実施により大型航空機の離発着が可能となり、フィリピン国内でのハブ空港としての役割も高まった。また、セブ島を訪れる観光客数も、新ターミナルビルが開業した1996年に大幅に増加した後、高水準で推移しており、間接的ではあるものの本事業の効果が認められる(表1参照)。

(3) 近年、本空港に隣接するマクタン輸出加工区における輸出額は、一貫して伸びている。また、本空港開港以降、同加工区に進出する企業数の数も大きく増えており、本空港がその進出決定の一要因になったと考えられる(表2参照)。

表1 セブ観光客数の推移



出所：フィリピン観光公社(PTA)

表2 マクタン輸出加工区

年度	1995	1996(1-3月)	1997	1998	1999(1-3月)
企業数(営業ベース)	84	89	102	103	103
輸出額(百万US\$)	880	240	1,133	1,307	318
従業員数(12月末時点)	28,259	29,304	35,932	35,920	37,118
人件費合計(百万ペソ)	1,647	453	2,541	2,931	724
従業員1人当たり平均月収(ペソ)	4,857	5,148	5,892	6,801	6,499

出所：Mactan Economic Zone, Administration Office



マクタン空港全景



エプロン



国内線出発ロビー